

建築人

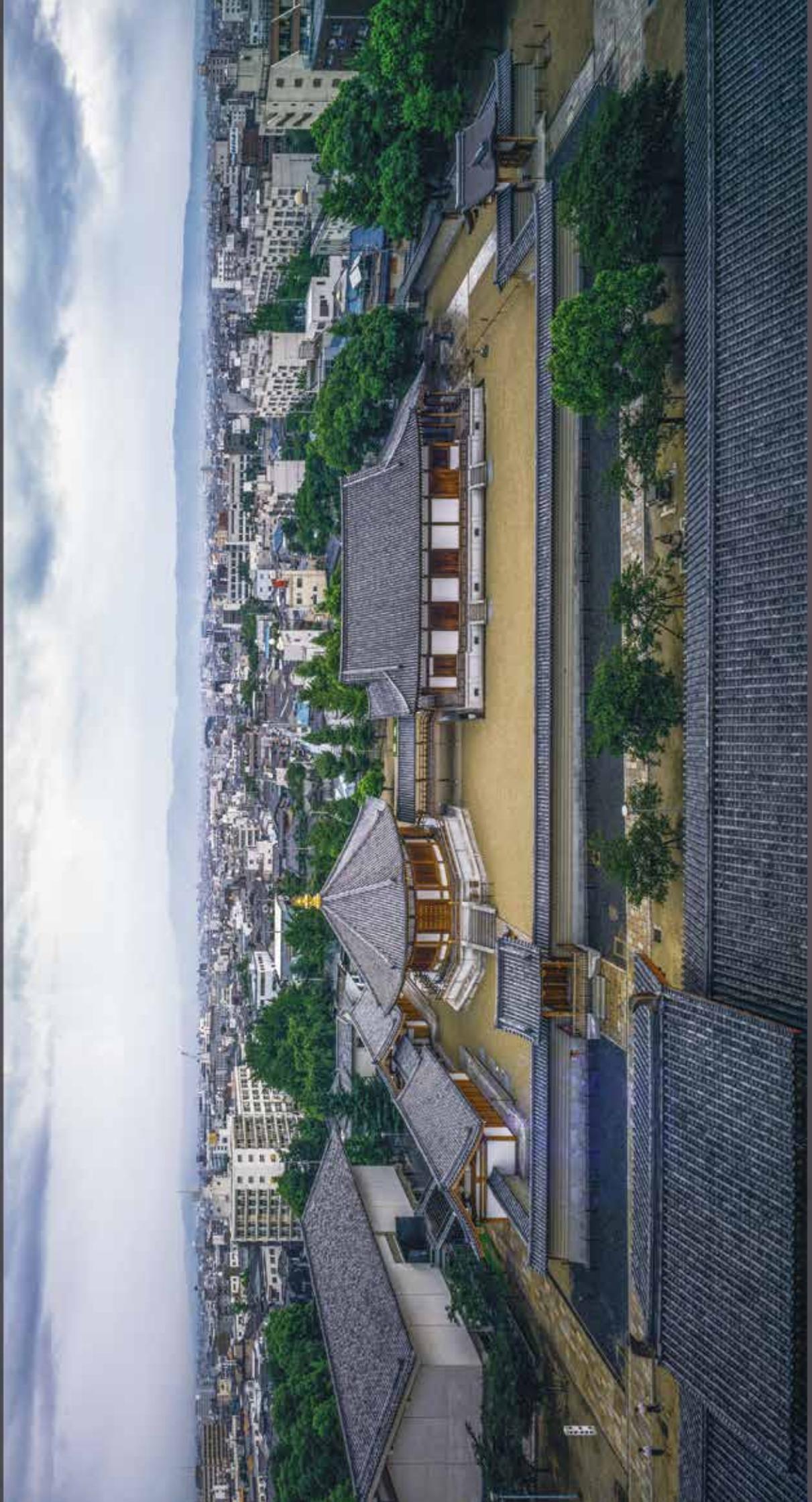
2025

6

Osaka Association of Architects & Building Engineers
Newsletter "Kenchiku-Jin" No.732

シリーズ 大阪・関西万博をめぐる





建築人

2025.06 No.732

Osaka Association of Architects & Building Engineers
Newsletter "Kenchiku-Jin"

表紙の建築 「御堂筋ダイビル」2024年

第68回 大阪建築コンクール 大阪府知事賞 受賞作品

設計：日建設計

施工：大林組

撮影：伊藤 彰(アイフォト)

御堂筋と難波神社に面する希有な敷地条件を活かし、空と緑へのビューの有無を日射抑制フィンの最適配置を行うパラメーターとしてシミュレーションした外装デザインを考案。低層階は御堂筋を見下ろす「棧敷席」を設け、今までの御堂筋にはなかった新しい都市への視点を提供した。

2 大阪浪漫

4 Gallery 建築作品紹介

「ヒルトン京都」

設計：竹中工務店

施工：竹中工務店

「とくなが荘 OKUZASHIKI」

設計：環創研/北條建築事務所

施工：平野工務店

「-繋- tsunagu」

設計：藤本高志建築設計事務所

施工：山佑建設

7 News of Note

8 第68回大阪建築コンクール入賞発表

12 シリーズ 大阪・関西万博をめぐる

18 動静レポート

19 Topics

20 Information

22 記憶の建築

「福岡県文化会館(現・福岡県立美術館)」1964年
塔のある複合施設の存在感 / 松隈 洋

建築人 No.732 2025年6月号

監修 公益社団法人大阪府建築士会 建築情報委員会

編集 建築情報委員会『建築人』編集部

部門長：田鍋 稔

委員長：松下典央(編集人代表)

編集人：武藤優哉 石上芳弘 荻窪伸彦 河崎太平

昇 勇 橋本頼幸 春岡須磨子

三谷勝章 村上栄司 山本恭史

事務局：辻本和人 母倉政美

ロゴ・フォーマットデザイン 芝野健太

印刷 中和印刷紙器株式会社

令和7年6月1日発行

発行人：会長/岡本森廣

発行所：公益社団法人大阪府建築士会

〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17 高田屋大手前ビル5F

tel. 06-6947-1961

大阪浪漫

(1982年・四天王寺)

写真・文 喜多 章

この写真は1982年に雑誌の取材で四天王寺五重塔の上から東側の生駒山脈方面に向けて境内を撮影したカット。大阪浪漫を撮影し始めたキッカケを思い起こせば、この折に四天王寺周辺を写した景色の記憶が引き金となり、じわじわ膨らんでいった様な気がします。今から10年以上前、過去に撮影した多くの思いが募るフィルムを今の内にデータ化しておこうとスキャンニングしておいた事が、今回で最終稿になる建築人連載にも繋がったのではと感じております。



河原町通に面し、世界中から集客のあるフルサービスのホテルを新築するプロジェクトです。

京都の歴史や伝統、革新から生み出される魅力とゲストを結びつけ、奥深い装いで京都らしさを演出するホテルを計画しました。

京の路地に見立てた奥深いアプローチを通り、組紐で包まれた大空間のレセプションへゲストを導きます。

最上階のラウンジに坪庭を取り込み、屋上に東山を一望するテラスを設けることで、四季を感じる京都の景色に出会える庭を設えています。

これらのおもてなしの空間を包み込むように、陰影と風合いのある外装を纏わせました。

所在地：京都府京都市
用途：ホテル
竣工：2024.05
内装：橋本夕紀夫

デザインスタジオ
構造規模：地上3造、地下SRC造
地下2階、地上
9階、塔屋1階

敷地面積：5,050.55㎡
建築面積：2,790.45㎡
延床面積：25,684.66㎡
写真：ナカアンバートナズ



先々代から湯治宿を受け継ぎ、新たな顧客層の開拓を目指した。既存本館の外観を踏襲し、敷地全体として一体感ある風景を形成するとともに、湯治宿の重要な要素である共用台所を中心に、長期滞在客が家に居るようにくつろげる空間を考えた。台所のあるリビングホールは土間床として天井を張らず、視線の抜けを与えることで“屋内でありながら室外である”と定義付け、汎用性向上を狙った。厳しい寒さと盆地性の夏場の暑さを考慮して、自然熱源の冷暖気ファン搬送システムを導入した。平面混構造を採用しRC壁式構造の高耐震性を得つつ木造部分は筋交いなしで垂直力のみ負担させ、躯体コスト低減と工期短縮を図った。

所在地：大分県由布市
用途：旅館
竣工：2025.03
構造規模：木造一部壁式RC造平屋
敷地面積：655.49㎡
建築面積：139.02㎡
延床面積：117.60㎡
写真：笹の倉舎/笹倉洋平



借り手がなく、しばらく空き店舗となっていた建物を活用して建築しました。既存建物の角波鋼板のリズムを取り入れたスノコ状のファサードとし、暖簾がなくても開店・閉店がわかるデザインとしています。数年後には解体する可能性があり、費用を掛けずに開店したいという事で設計がスタートしましたが、出来るだけ長く快適に使っていただけるように設計しました。

店名の「一 繫 一」には食を通して人と人が出会い、心がつながり、新たな出会いや思い出が生まれてほしいという願いが込められています。その名の通り次のステップに繋がるお店になって欲しいと思います。

所在地：大阪府豊中市
用途：飲食店(弁当屋)
竣工：2025.01
構造規模：W造(在来工法)
地上2階
延床面積：25.93㎡
(改装部分)
写真：高橋菜生写真事務所

「安藤忠雄展 | 青春」の紹介

大阪に生まれ、独学で建築を学んだ安藤忠雄は、1969年より建築設計活動をスタート。以来既成概念を打ち破る斬新な建築作品を次々と世に送り出してきました。90年代以降はその活躍の舞台を世界に広げる一方で、環境再生や震災復興といった社会貢献事業にも尽力。建築家の枠組みに留まらない、その多分野にわたる旺盛な活動は国内外で高く評価されています。そんな安藤が今なお本拠地とする大阪で開催される本展は、その壮大な挑戦の軌跡から、現在、未来へのビジョンまでを集約、安藤忠雄の全てを一望にするものです。その熱量を是非、現地に足を運び体感してください。



230点を超えるスケッチ、ドローイング、模型の数々



北海道「水の教会」を原寸大で再現



天井高15mの大空間に映し出されるインスタレーション「安藤忠雄の建築」



直島の一連のプロジェクトとこども図書館船「ほんのり号」

会場：VS. (グラングリーン大阪)

開館時間 10:00-18:00

※金・土・祝前日は20:00まで

※入場は閉館の30分前まで

休館日：毎週月曜日(祝日は営業)

入場料 一般1,800円、大学生1,500円、高校生1,000円(団体：一般1,600円、大学生1,300円、高校生800円)

○団体割引の適用は30名以上です

○学生料金の方は、入場時に学生証等をご

提示ください。ご提示がない場合は、一般料金になります。中学生以下は入場無料です(中学生は学生証等を提示、小学生以下はその旨をお伝えください。) ○障がい者手帳などをお持ちの方(同伴1名を含む)は900円(要証明) ○チケット販売：VS.公式WEBサイト、VS.チケット売場(会期中の開館日のみ販売)、チケットぴあ、KANSAI MaaS



【VS. (グラングリーン大阪)】大阪府北区大深町6-86 うめきた公園ノースパーク

■大阪府知事賞部門	大阪府知事賞	御堂筋ダイビル 大阪避雷針工業神戸営業所	喜多主税・金子公亮・谷口尚史 山崎篤史・大石幸奈
■渡辺節賞部門	渡辺節賞	ATEREA GARDEN 光垂興産本社 光土間の隠れ家	真庭 綾 北村泰之

趣旨

建築士はその職責を通じて地域社会の発展に寄与し、建築美を通じて建築文化の向上、ひいては地域文化の振興にも寄与していく必要があり、その責務は重大である。

大阪建築コンクールは、建築士と社会とのかかわりを通じて建築作品を評価し、その優れた実績をたたえ、建築作品の設計者である大阪府建築士会正会員または大阪府在住もしくは在勤の建築士を表彰する。同時に行う渡辺節賞については、新しい建築文化の原動力となる若い優れた設計者をたたえ、さらなる発展を望むものである。

募集範囲

2019年1月1日から2024年12月31日の間に竣工し、完了検査済証の交付を受けた建築物

* 建築確認申請不要物件は完了検査済証不要

* 竣工年月日は工事完了時

●大阪府知事賞部門

対象建築：建物の種類・規模は問わない

建築位置：近畿二府四県

応募資格：設計者が大阪府建築士会正会員または大阪府在住もしくは在勤の建築士

●渡辺節賞部門

対象建築：建物の種類・規模は問わない

建築位置：近畿二府四県

応募資格：設計者が大阪府建築士会正会員または大阪府在住もしくは在勤の建築士

完了検査済証発行日現在 39歳以下

審査委員会

委員長 倉方俊輔 (大阪公立大学教授)

委員 浅尾 宏 (大阪府都市整備部住宅建築局公共建築室長)

※50音順 田口雅一 (大阪芸術大学教授、TAPS 建築構造計画事務所所長)

根本哲夫 (奈良女子大学教授)

松本尚子 (京都芸術大学准教授)

審査

応募数 大阪府知事賞部門 35点

渡辺節賞部門 9点

審査委員会 4回

●第1次審査

2月10日 書類・図面、写真によって、大阪府知事賞部門5点、渡辺節賞部門4点を選考

●第2次審査

2月17日、3月3日 第1次審査通過作品について現地審査を2日間実施

●最終審査

3月3日 第2次審査終了後に実施

大阪府知事賞部門：大阪府知事賞2点

渡辺節賞部門：渡辺節賞2点を選出

表彰式

日程 令和7年5月28日(水)

本会定時総会式典席上

会場 KKR ホテル大阪

審査経過並びに総評



審査委員長 倉方俊輔

伝統ある賞の審査委員長を務めることになり、結果として「大阪建築コンクール」らしい審査結果となったことを、今、清々しく感じている。

本賞の要点は、募集要項に明記されている通り、「建物の種類・規模は問わない」という点にあると考える。建築は建築である。その中で、多くの人々が自作を応募というかたちで世に問い、公益社団法人大阪府建築士会の関係者が準備に力を注ぎ、審査員が作品を吟味し議論を重ね、これが建築であると考えるものを発表する。この営みが積み重ねられて、すでに67年となる。過去の入賞者を見ても錚々たる顔ぶれが並び、大阪の建築史を物語っている。作品の性格には、その時々時代の時代性が如実に反映されている。

本賞は「大阪府知事賞」と「渡辺節賞」の二部門に分かれているが、両者の間に大きな違いがない点も特徴といえる。後者には応募資格として「39歳以下」という条件があり、若手頭彰の意義が込められているが、過去には大阪府知事賞が住宅作品に与えられたこともあれば、渡辺節賞が大型の建築に贈られたこともある。優れた建築において、規模の大小は本質的な問題ではない。さらに言えば、設計組織の規模も無関係だ。大阪にはそんな風に、建築をひとつのものとして捉える風土がある。建物の種類や規模にかかわらず、作品の質をめぐって真摯にコミュニケーションがなされ、新しい試みに光が当たる。そうした伝統が、今年68回目となる審査結果にも表れている。

本年度は、大阪府知事賞部門に35点、渡辺節賞部門に9点の応募があった。応募書類をもとに第一次審査を行い、9点を第二次審査（現地審査）の対象とした。この選考作業が、実に悩ましい。これまで日本建築学会賞や東京建築士会の賞の審査にも携わってきたが、書類だけでは伝わらなかった質に、現地で出会うことは少なくない。

したがって、できるだけ多くの作品を現地で見たいという思いはあるものの、数をいくら増やしたとしても審査員が読み取れなかった可能性は残る。そのため、過去の経験を踏まえ、2日間で余裕をもって見学・議論できる件数に絞る判断をした。こうした事情をふまえ、本年度の応募者には、今後も自作を世に問う姿勢を継続してほしいと願っている。

大阪府知事賞を受賞した「御堂筋ダイビル」については、オフィスビルという建物の種類を捉え直した設計理念の深さが、審査員一同の高い評価を得た。単に良く機能する建物を街に一つ加えるのでもなく、造形的な遊びに偏るのでもない。ファサードは、日射抑制という機能的要請から導かれた外装フィンを持ちつつ、遠景における都市の風景とも調和している。2階のテラスは1階店舗の賃貸面積を最大化するという経済性への配慮のもとで設計されながら、建築の内と外にいる市民の体験の両方を豊かにしている。技術面・コスト面で無理をしていないのもいい。個性を楽しみ、普遍性のある解答が提出されている。

もう一つの大阪府知事賞である「大阪避雷針工業神戸営業所」も、リノベーションないしは改修設計という昨今、一般的になってきた建物の種類をより高みへと導くものとして評価が集まった。単にコストや環境配慮といった理由で既存建物を活用したのではなく、その既存性を素材としながら、建築がいかに豊かで創造的なものになり得るかを示している。減築によって設けられたトップライトから構造体に落ちる光は空間に生命を吹き込んでおり、新たな基礎を必要としない左右への開放的な構成が、

柔らかく包容力のある空間性を実現している。こうしたデザインの質は、施主に対しても業務への自信と誇りを与えている。改修設計こそが、新築以上に個性や新規性を発揮できる設計領域なのではないか。そんな理念が感じられる。

渡辺節賞を受賞した「ATEREA GARDEN 光亜興産本社」は、完成度の高さに加え、現地審査での納得感が際立っていた。これは個人的な見解となるが、立地を愛していると感じられた。施主が長年関わっていたこの街の中での位置を読み解き、敷地の形状を内部空間の心地よさにつなげ、施主が望む次のまちづくりを自然に推進する基盤を形作っている。建築とは揺れ動かない、思想の表明である。本作がまちなかにできたことで、関わる人々の関係性はさらに良くなっていくことだろう。今後、多くの声を聴き続けながら、建築をつくり続けてほしい。

もう一つの渡辺節賞である「光土間の隠れ家」こそ、建物の規模と建築の理念の大きさは別問題である事実を、最も示しているものかもしれない。また、今回たまたま他の3作品はいわゆる組織設計事務所に所属する設計者の作品であり、本作はそうではないが、それらを同列に審査することも実感できた。つくり手であり、暮らし手でもあるセンスの良さを感じさせる心地よい空間であり、それが同時に、再建築不可の建物に対する説得力ある解答となっている。大阪らしさという個性を救済できる建築家らしい能力をぜひ、普遍的に展開してほしい。

「大阪建築コンクール」の「大阪」とは、大阪らしさや京都らしさ、そして奈良、神戸、滋賀などにおける多様性が交流し、刺激し合う場所として付された名称だろう。ここにもまた「東京」などとは違う個性が見出させる。今回の第二次審査対象となった残り5点も、それぞれの場所性を読み取った、志の高い作品だったことが、そんな思いを強くさせる。

■大阪府知事賞部門 大阪府知事賞 御堂筋ダイビル

設計者 喜多主税・金子公亮・谷口尚史 (株式会社日建設計)



建築位置／大阪市中央区	竣工年月／2024年1月	建築面積／1,101.26㎡
建物用途／事務所	構造／S造 一部SRC造	延床面積／20,275.57㎡
建築主／ダイビル株式会社	階数／地上20階・地下1階・PH1階	
施工者／株式会社大林組	敷地面積／1,491.92㎡	撮影 Akira Ito.aifoto

〈審査講評〉歴史的な都市インフラを丁寧に観察し、「御堂筋の価値は2階」という視座を得ることで新たな都市体験を生み出した、都市空間のリノベーションとも言えるプロジェクトである。金属パネル外装や環境性能を最適化するフィンなど、周辺環境に反応する動的なファサードは、これからのオフィス建築の方向性を示唆している。(審査委員 松本尚子)



喜多主税
1969年8月生まれ
1992年3月 京都工芸繊維大学工学部建築学科卒業
1992年4月 株式会社日建設計入社

〔主な建築作品と受賞歴〕

〈紀陽銀行田辺支店〉2012年 日本建築士会連合会賞奨励賞・日本建築学会作品選集／〈大塚グループ大阪本社大阪ビル〉2015年 日事連建築賞・日本建築学会作品選集・World Architecture Festival:Office shortlist・2016年 大阪建築コンクール(大阪府知事賞)・2017年 日本建築士会連合会賞奨励賞／〈蘇州現代メディアプラザ(蘇州電視台)〉2018年 日本建築学会作品選集・中国優秀勘察設計業界賞・中国建築工程鲁班賞／〈常州商務金融広場・秋地区〉2022年 中国地産設計大賞(CDEDWARD)優秀賞・Pro+Award普夢賞 銀賞／〈蘇州呉江バスターミナル〉2024年 中国地産設計大賞(CDEDWARD)優秀賞



金子公亮
1982年11月生まれ
2001年4月 東京都立大学工学部建築学科入学
2005年3月 卒業
2005年4月 首都大学東京大学院工学研究科建築学専攻入学
2007年3月 修了
2007年4月 株式会社日建設計入社

〔主な建築作品と受賞歴〕

〈松江市総合体育館〉2017年 日本建築家協会優秀建築選・2020年 公共建築賞 優秀賞／〈椋山女学園大学附属椋山こども園〉2020年 日本建築家協会優秀建築選・2020年 愛知県建築士事務所協会建築賞 優秀賞・2022年 日本建築学会作品選集・同新人賞／〈阿波銀行本店営業部ビル〉2022年 日事連建築賞 国土交通大臣賞・2022年 日本建築学会作品選集・同新人賞・2022年 日本建築家協会優秀建築選／〈尾道市本庁舎〉2022年 日本建築家協会優秀建築選・2023年 日本建築学会作品選集／〈浜松いわた信用金庫 本部・本店〉2024年 中部建築賞・2024年 ふじのくに木使い建築施設表彰 最優秀賞



谷口尚史
1986年2月生まれ
2008年3月 京都府立大学人間環境学部環境デザイン学科卒業
2012年3月 京都市立芸術大学大学院美術研究科環境デザイン専攻修了
2019年10月 株式会社日建設計入社

■大阪府知事賞部門 大阪府知事賞 大阪避雷針工業神戸営業所

設計者 山崎篤史・大石幸奈 (株式会社竹中工務店)



建築位置／神戸市兵庫区	竣工年月／2024年4月	建築面積／297.14㎡
建物用途／事務所	構造／RC造・S造・W造	延床面積／471.59㎡
建築主／大阪避雷針工業株式会社	階数／地上2階	
施工者／株式会社竹中工務店	敷地面積／660.87㎡	撮影 山本拓治

〈審査講評〉環境負荷を減らし、耐震・環境性能だけでなく、空間の質の向上や過去と未来を紡ぐ新たな価値への転換を目指す設計者の改修提案は、書類審査から魅力的であった。現地審査では、環境調整装置的な南北の外壁と庇の構造解法がやや強引な印象も受けたが、設計者の話を聞き、空間を体験すると、精緻なロジック以上に施主との良好な関係の中で生まれた「時がつくる価値・経年美化」というコンセプトが建築全体で感じられる秀作であった。(審査委員 田口雅一)



山崎篤史
1982年8月生まれ
2005年 神戸大学工学部建設学科卒業
2007年 神戸大学大学院自然科学研究科修了
2007年 株式会社竹中工務店入社
2008年 同社広島支店設計部
2012年 同社大阪本店設計部

〔主な建築作品と受賞歴〕

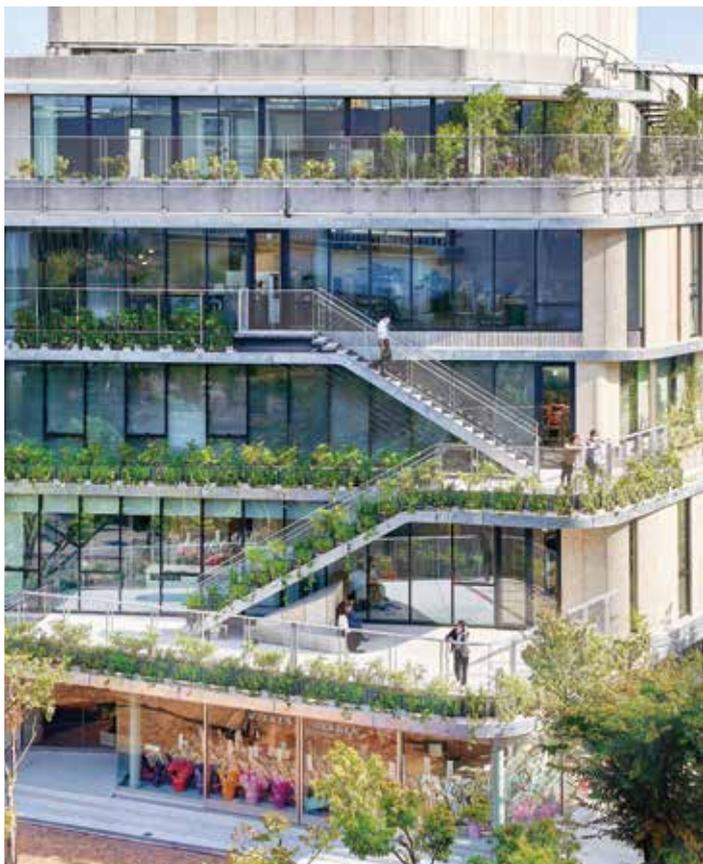
2005年 神戸大学建築大賞
2015年 ひろしま建築文化賞／寺岡整形外科病院
2018年 日本建築協会 第65回青年技術者
2022年 釜山建築祭 招待建築家(韓国)／Seeds Paper Pavilion
2024年 兵庫県人間サイズのまちづくり賞 知事賞／大阪避雷針工業神戸営業所
2024年 ウッドデザイン賞 奨励賞／大阪避雷針工業神戸営業所
2025年 iF DESIGN AWARD(ドイツ)／大阪避雷針工業神戸営業所
2025年 知財番付2024 将来性部門銀賞／大阪・関西万博「森になる建築」



大石幸奈
1992年8月生まれ
2015年 東北大学工学部建築・社会環境工学科卒業
2017年 東京大学大学院工学系研究科建築学専攻修了
2017年 株式会社竹中工務店入社
2018年 同社大阪本店設計部

〔主な建築作品と受賞歴〕

2022年 釜山建築祭 招待建築家(韓国)／Seeds Paper Pavilion
2024年 兵庫県人間サイズのまちづくり賞 知事賞／大阪避雷針工業神戸営業所
2024年 ウッドデザイン賞 奨励賞／大阪避雷針工業神戸営業所
2025年 iF DESIGN AWARD(ドイツ)／大阪避雷針工業神戸営業所
2025年 知財番付2024 将来性部門銀賞／大阪・関西万博「森になる建築」



■ 渡辺節賞部門 渡辺節賞

ATEREA GARDEN 光亜興産本社

設計者 真庭 綾 (株式会社日建設計)



真庭 綾

1986年5月生まれ

2009年3月 京都工芸繊維大学工学部造形工学課卒業

2011年3月 京都工芸繊維大学大学院工学科学研究科建築設計学専攻修了

2011年4月 株式会社日建設計 現在に至る

[主な建築作品と受賞歴]

2016年 浜松いわた信用金庫さらりタウン支店 日事連建築賞 奨励賞

2016年 浜松いわた信用金庫三方原支店 中部建築賞 入選

2018年 デンソーグローバル研修所・保養所「AQUAWINGS」BCS賞

2021年 ペガサスミシン製造本社 大阪環境にやさしい建築賞

2023年 ミズノイノベーションセンター「MIZUNO ENGINE」日経ニューオフィス賞

クリエイティブ・オフィス賞

建築位置／門真市	竣工年月／2022年9月	建築面積／527.24㎡
建物用途／事務所	構造／S造	延床面積／2006.52㎡
建築主／光亜興産株式会社	階数／地上5階	
施工者／日本建設株式会社	敷地面積／672.52㎡	撮影 Buddy P 長屋 明

〈審査講評〉まちづくりに取り組まれている会社の社屋。隣接する公園に面した1・2階のスペースを地域活動に開放し、西側の前面道路と公園に面する部分を徐々にセットバックさせ、周辺の「緑」と立体的に連続させた植栽、公園に大阪の海「風」をよびこむフォルムは開放感があり好感が持てる。低層部の照明の「光」が夜間に公園や歩道に漏れ、落ち着きがあり風合いのある外装とともに街を演出している。
(審査委員 浅尾 宏)



■ 渡辺節賞部門 渡辺節賞

光土間の隠れ家

設計者 北村泰之 (一級建築士事務所 KNOOOT 株式会社)



北村泰之

1989年9月生まれ

2012年3月 大阪芸術大学芸術学部建築学科卒業

2021年3月 京都工芸繊維大学大学院工学科学研究科 建築学専攻 博士前期課程修了

2012年4月 株式会社スペース

2016年4月 株式会社アルキービ総合計画事務所

2022年3月 knoooot一級建築士事務所開設

2022年3月 アルト大学 建築・デザイン・芸術学部 客員研究員

2023年10月 KNOOOT株式会社設立

2024年4月 日本理工情報専門学校 建築デザイン科 非常勤講師

2025年4月 大阪モード学園 インテリア学科 非常勤講師

[主な建築作品と受賞歴]

2025年 「borns」

2024年 「光土間の隠れ家」／令和6年度住まいのインテリアコーディネーションコンテスト 経済産業大臣賞

2023年 「π spectacle」

2023年 「HOUSE H」

2020年 「箕面森町の家」／AZ Awards 2021 受賞、ASIA DESIGN PRIZE 2021 GRAND PRIZE -Team of the Year(年間最優秀賞)、グッドデザイン賞2020 受賞

建築位置／大阪市東成区	竣工年月／2024年7月	建築面積／43.64㎡
建物用途／戸建住宅	構造／W造	延床面積／78.65㎡
建築主／北村泰之	階数／地上2階	
施工者／KNOOOT株式会社	敷地面積／82.01㎡	撮影 緋田昌重

〈審査講評〉木造密集市街地の空き家対策に一石を投じる意欲的な取り組みに敬意を払いたい。接道義務を果たすことができず建替え困難な空き家に対し、その場がもつ優れた特性を深く読み解き、見事なまでに空間の再編を成し遂げた秀作と言える。新築には表現することが容易ではない多くの魅力が引き出されていた。何より、光土間に対し大きな開口部と吹抜を設けた「明」の空間と寝室や居間などの「暗」の空間のコントラストが秀逸であった。
(審査委員 根本哲夫)

ヨルダン館

素材と文化の対話



ヨルダン館は、「素材・記憶・持続可能性」を軸とした建築的対話である。土、砂、木、塩、羊毛などの自然素材を用い、ヨルダンの歴史と文化、また未来を空間として表現している。建築面積は約350㎡で、館内は「動く外装」「時の回廊」「文明のシアター」「交流ゾーン」「死海スパ」「織りラボ」へと時系列に沿って展開する。

来場者はまず、久住有生氏による左官の土壁と、Ishraq Zraikat氏の15mの織物、Ammar Khammash氏の音のインスタレーションが連動する「時の回廊」を歩き、時代を遡る。次の「文明のシアター」では、ワディ・ラムの砂に囲まれた杉の構造体内で360度映像が展開され、考古局と博物館の協力により3Dスキャンされた遺産が映し出される。

その後、「交流ゾーン」ではサンドアート体験や伝統茶、土壁と木材で構成された空間内での工芸品販売が行われる。2階には、塩ブロックで構成された「死海スパ」と、ヨルダン女性によるフェルト玉のインスタレーションを展示する「織りラボ」がある。

設計はシファ・ズグール氏とアフマド・ジョブラーン博士。日本側の実施設計とサポートはNASCAが担当し、施工はDAIKO + NITTEN、照明と映像はMODULEX Inc.、家具はSCALEが制作した。素材はヨルダンの塩・砂・石材を日本に輸送、日本産の杉（奈良県上北山村）と土（兵庫県淡路島）は現地調達し、両国の学生や職人が共同で建設に携わった。

ヨルダン館は、素材の知性と職人技、そして国際協働を軸に構築された建築事例である。展示という枠を越え、訪れる人々が“歩き、触れ、聴き、香り”ことで、ヨルダンの記憶と文化を身体的に経験できる。ここでは、建築は単なる形ではなく、「対話」として存在する。足元は砂の上、そして思考は雲の中にある。



【建築概要】

敷地面積：1,824.29㎡
延べ面積：1,994.20㎡
（うちヨルダン区画は394.95㎡）

構造種別：鉄骨造
階数：2階

【建築主】

ヨルダン・ハシェミット王国

【設計】

基本設計：Shifa Zghoul + Ahmad Jobran
実施設計：古谷誠章 + NASCA

【施工】

株式会社大広
株式会社日展

【展示・協力】

アーティスト：Ammar Khammash、Ishraq Zraikat、Ghor Fifa
土壁左官：左官株式会社 久住有生
木材調達：奈良県上北山村 + 上北山村小椋自治会
木材加工：株式会社徳田銘木
デザイン協力・ワークショップ：池田理哲、早稲田大学古谷誠章研究室
映像制作：Hamzah Mahfouz、Amr Touky、Ahmad Jobran
外装制作：CAVT
照明デザイン：株式会社モデュレックス
映像・音響設備：株式会社モデュレックス、Orihalcon
家具什器：株式会社スケール 山本大輔

Pavilion of The Republic of Uzbekistan at Expo 2025 Osaka

知識の庭：未来社会の実験室



(写真：松村芳治)



「知識の庭：未来社会のための実験室」をテーマとするウズベキスタンパビリオンは豊かな文化遺産、先進的な建設技術、SDGsへの取り組みを体現する。ユネスコ世界遺産に登録されているホラズム州にあるヒヴァ旧市街の建築群「イチャン・カラ」や史跡、中央アジアの人々が大切にしている伝統的な護符「トゥマル」に着想を得た三角形のデザインが敷地形状に呼応する。基壇部分の外観にはレンガや土壁により大地や根、歴史的記憶を表し、上部の彫刻的な木立は森を象徴している。この森には西日本各地から調達され、トレーサビリティのためのタグがつけられた286本の丸太材と積層化する伝統装飾模様の三角形の組子と梁が醸し出す光と影が、木漏れ陽のように来訪者を包んでくれる。ウズベキスタンの伝統に基づいた自然素材とモジュール化された現代的デザイン要素が調和して、サステナビリティの理念を未来を示唆している。解体移築を可能にするため、積層する上部部材はボルト接合を選択し、構造強度が要求されるGIR (Glued In Rod)の接合部は、部材の上下に切断のための隙間を確保し、柱下部は構造的に絶縁している。過去・未来を没入体験しながら森へと上昇する床は、奥深い歴史を持つ国への誘いとともに、シルクロードでつながる日本とウズベキスタンの絆を想起させ、未来社会のデザインとして昇華している。本デザインは2025ドイツデザインアワードの「卓越した建築―見本市と展示」部門で金賞に選出された。

【建築概要】

敷地面積：1,044.28㎡
 建築面積：636.02㎡
 延べ面積：640.43㎡
 構造種別：木造一部鉄骨造
 階数：平屋

【建築主】

Uzbekistan Art and Culture
 Development Foundation
 ウズベキスタン芸術文化振興財団

【設計・監理】

コンセプト・デザイン：ATELIER BRÜCKNER
 設計監理：(株)徳岡設計
 設計協力：川上聡建築設計事務所
 B | M：(同)ルフト一級建築士事務所
 構造設計：アルキテック(株)
 構造監修：石山 央樹(大阪公立大学)
 電気設備：(株)DANNE
 機械設備：(株)Andeco

【施工】

統括：NÜSSLI (Switzerland) Ltd
 総合：誠和建設(株)
 建築：(株)大作
 機械：(株)正本設備
 電気：(株)Gemini

【木工事施工】

躯体：(株)篠原商店
 加工：(株)翠豊
 接合：(株)スクリムテックジャパン
 造作：シグラベース(株)

【木材調達・協力】

調達：(一社)大阪府木材連合会
 高原木材(株)
 協力：兼松サステック(株)
 トレーサビリティ：(株)Andeco

【遊戯施設】

迫機構：三晃工業(株)
 シリンダー：(株)三和製作
 スクリーン：三和ファサード・ラボ(株)

【専門工事】

鉄骨工事：(株)ココカ
 昇降機：日本エレベーター(株)
 タイル工事：(株)都築業
 左官工事：近畿壁材(株)

【各種申請】

建築確認申請：(一財)日本建築総合試験所
 工作物確認申請(装飾塔)：(一財)日本建築総合試験所
 工作物確認申請(遊戯施設)：(株)国際確認検査センター

【展示工事】

展示照明：BeWunder
 展示工事：ShowTex

休憩所1

fuku fuku



世界から多様な方々が来場される万博であることから「誰にも開かれた五感で感じることができる休憩所」とすることを考えて設計した、黄色、赤、オレンジのテキスタイルで葺かれた大屋根の休憩所である。

たくさんのパビリオンを忙しく訪れる中で、ふと立ち止まって光の綺麗さに気がついたり、風を感じたりしながら、万博での体験を反芻する場を目指している。中央の円形の休憩エリア内は、冷気が下からじんわり染みでてくる、触れると涼しいハンモック状の床であり、体を横たえると風で動く屋根のテキスタイルや透過する光を自然と見上げられるようになっている。来場者にとって心地よい日陰を作り出すとともに、揺れ動く半透明のテキスタイルによって、風の移ろいや光の美しさを感じられる場所となつてほしいと考えた。



写真 太田拓美

設計：大西麻貴 + 百田有希 / o+h
 構造設計：平岩構造計画
 設備設計：建築エネルギー研究所
 テキスタイル協賛：宇仁繊維
 施工：住建・加藤建設工事共同企業体
 構造：サスペンション膜構造 地上1階建て
 延床面積：830.10㎡

展示施設

「フューチャーライフヴィレッジ」



©Yohei Sasakura

「共創と対話」をテーマとする同時多発的な展示・企画に対し、「非中心・離散」を掲げた万博の会場構成に呼応し、夢洲に育まれた湿地の記憶を継承する中庭を中心とした、開かれた場としての展示施設です。多様な植栽帯や池が散りばめられた中庭では人と自然が等価に混ざり合い、その周囲には大小さまざまな円形展示棟が連なります。動線軸となるリング状の回遊通路がそれらを緩やかにつなぎ、来訪者の自由な回遊を促しながら、様々な活動が心地よく共存できる「多様でありながら、ひとつ」の関係性を表現しています。

木の葉のように重なり合う屋根群は、雨水を集水しながら各室に自然光を取り入れ、気持ちのよい森のように柔らかくまとまりながらも変化に富んだ、豊かな体験の場を創出します。中庭側には、産廃焼却灰を再資源化した溶融還元石を詰めた、鉄筋トラスを用いて構造化した蛇籠壁が立ち上がり、光や風を通して緑を纏う新しい環境的な壁として、開放的な半屋外棟を構成します。雨水や灌水は中庭の池に貯水され、輻射冷房パネルや蛇籠壁の冷却散水として水を循環利用し、中庭全体を使って意匠・構造・設備・外構が一体となったこれからの環境空間の実践を試みています。



©Yohei Sasakura

設計：KOMPAS + eiko tomura landscape architects (ランドスケープ) + Graph Studio (構造) + ZO設計室 (設備)
 施工：三田工務店
 構造：鉄骨造・木造1階建て、一部2階
 延床面積：1271.94㎡

シリーズ 大阪・関西万博をめぐる

ポップアップステージ東内

雲の屋根を浮かべる



©Ikuya Sasaki

ポップアップステージ(東内)は、関西・大阪万博会場最寄りの夢洲駅から東ゲートをくぐり、木造の大屋根リングを上げるとすぐに姿を現します。開放的な「光の広場」の中央に位置し、世界各国の音楽や踊り、日本の文化を世界に発信する演目などが催される屋外ステージです。本プロジェクトでは、大勢の人々が集うステージと観客席の頭上を覆うように、人工の霧による一塊の雲を浮かべることを試みました。雲はそのかたちを絶えず変化させながらも、世界中に存在する身近な存在です。会期中となる夏場の日差しを柔らかく遮り、ステージ周辺に涼しく快適な場をつくります。また、半年間だけの仮設建築であることから、現地で手に入る「水」という素材に着目し、会期中だけ存在感を現し、会期が終われば痕跡を残さず消えていく〈現象としての仮設性〉を目指すのではないかと考えました。この雲の下でたくさんの人々が時間と空間を共有し、遠く離れた世界の出来事や人々とのつながりを実感する瞬間が数多く生まれることを期待しています。

設計：桐 圭佑 / KIRI ARCHITECTS

構造設計：DN-Archi

設備設計：環境エンジニアリング

木材協賛：大東建託

施工：長村組

構造：鉄骨造一部木造

延床面積：118.69㎡

ポップアップステージ西

古典の先の原初へ
最小の人為で祝祭の場をつくる



©鈴木淳平



万博、祝祭の場には、人が集う目印となる最小の人為があれば十分ではないか。鳥居やストーンヘンジのような門型は、人間の作る場の最小単位のひとつである。

しかし、さらに原初的な状態は存在しないだろうか。そこで、柱にアニマスの原始的装飾を施し、「極細のエンタシス」とすることでヒトの意識にとってストレスのない状態にする。すると、梁だけが浮いたような状態になるだろう。木を伐り、伏せ、高く掲げる。シンプルだが、人にしか為しえない構成である。たった1本の松の皮付丸太が、強い場を生み出す。あとは丸太の上に松葉葺きの屋根を掛ければステージとして十分だろう。

屋根はシーソーのようにパタパタと動き、緞帳代わりになる。その動きゆえに屋根でなく舞台装置として脳に分類・認知されることで、建築としての認識からはすり抜け、やはり丸太の存在が際立つ。

人力による松丸太の建て起こしと屋根の松葉葺き、これらの要素はそれぞれ祇園祭の山鉾建て、春日大社おん祭仮御殿といった伝統的な祝祭へ意識を飛ばす媒介でもある。

当たり前の要素を見つめなおし、祝祭の場にふさわしい新たな原初性をもつ建築を試みた。

設計：三井嶺建築設計事務所

構造設計：ARUP

設備設計：CHCシステム

施工：安井空工務店

構造：鉄骨造・一部木造

延床面積：87.84㎡

ポップアップステージ東外

万博とその外側の世界を反転させる建築



©yasuhiro takagi



私は万博というものを疑っている。短期間に華々しい構築物が現れ、何事もなかったかのように消えていく。そんな「夢のような」祭り事から逃れるためには、そこで出来た建物が生き延びる以外には方法はない。だから、移築という条件を自らに課した。万博で設計しながらも、違う場所でのように建ち現われるかをずっと考えていた。伸びやかなリングの組み合わせで大きな空間となるように、膜の鉄骨ドームとし、移築先の本設でも耐えられる強度の構造とした。基礎も鉄骨にして再利用できる。万博ではステージではあるが、移築先で用途が変わることを考え、リングの組み合わせで開口をたくさんつくり、ステージという記号を纏わないようにする。他の場所で再建築される余白をできるだけ残して設計するというのが、私にとって万博で建築に向き合う時の唯一のリアリティであった。万博が産み出した「太陽のような開口」と「リング」を纏ったこの構造体が、どこかの土地に移築された時に、万博とその外側の世界がぐるりと反転し、本当の建築になると信じている。

設計：萬代基介建築設計事務所
構造設計：佐藤淳構造設計事務所
設備設計：C.H.C.システム
施工：株式会社 岡部
構造：鉄骨造+膜屋根 地上1階
延床面積：121.44㎡

トイレ4



峡谷のような建築とランドスケープを計画した。重く、弱く、現代的な素材とはかけ離れた扱いづらい素材である土を用いて、新たな建築材料として利用する。各地域の土地からとれる土を使った、現代の人間の巣のような建築と社会を提示したいと考えた。

建設用の3Dプリンターで外装パネルとプランターを出力し、日本の伝統構法である土壁から学び材料を選定している。それらは強度や吐出性だけでなく、日本国内で入手できることや、会期後の解体時に全て自然に還せることを条件に選定した。

3Dプリントされた形状は、自然界に存在する有機的な形態を参照し、日本全国で採取した石を3Dスキャンした形状データを複数融合して作られている。さらに土が自立するための構造的な合理性を実験により算出し、オーバーハングの制約条件に基づき形態最適化を行い、最終的な形状を決定した。

土などの身のまわりの自然素材とロボティクスの技術によって実現する建築によって、人と自然と機械が共生する未来社会の一端を提示できればと考えている。

設計：浜田晶則建築設計事務所
構造設計：構造計画研究所
設備設計：ZO設計室
施工：カネトモ
構造：木造1階建て
延床面積：139㎡

シリーズ 大阪・関西万博をめぐる

「松葉葺き」参加者を募集!

大阪・関西万博のポップステージ西
屋根の松葉を葺き替えるワークショップ



第一回松葉葺きの様子



大阪・関西万博のポップアップステージ(西)では、屋根の松葉を手作業で葺き替えるワークショップを実施します。

松葉葺きの屋根は、広い万博会場でも良く目立つ目印となり、ステージに必要な屋根や緞帳といった機能も併せ持つ要素としてデザインされています。生の松葉を使っているので、放っておくと枯れてしまいます。青々とした姿を保つためには、人の力が不可欠です。

参加者のみなさまには、会期中の万博会場にて、ポップアップステージの屋根を葺くための松葉(全部で数千本!)を束ねていただきます。

万博会場で手を動かしながら、他人事ではなく「自分ごと」として、ひとびとが集うステージの空間を一緒に作り上げていただきたく、皆様のご参加・ご協力をお待ちしております。

【日程】 2025年7月7日(月)

【時間】 ① 8:30集合 ② 10:00集合

参加者には万博会場への入場パスを発行します。

※応募多数の場合は抽選

本ワークショップの実施費用については、参加者の皆様から参加費の形として募らせていただきます。企業・団体様からのご支援もお待ち申し上げます。

詳細・お申込みは
以下QRコードから



expo-matsubabuki.peatix.com

大阪・関西万博をめぐる

過去掲載記事と掲載予定



3月号
大屋根リング



4月号
大阪ヘルスケアパビリオン
Nest for Reborn



5月号
休憩所2 / 休憩所3



5月号
休憩所4 /
ギャラリーWEST



5月号
ポップアップステージ北/
サテライトスタジオ東



5月号
サテライトスタジオ西/
トイレ1



5月号
トイレ2 / トイレ3



5月号
トイレ5 / トイレ6



5月号
トイレ7 / トイレ8

6月号 ヨルダン館

Pavilion of The Republic of Uzbekistan at Expo 2025 Osaka
休憩所1 / 展示施設

ポップアップステージ東内 / ポップアップステージ西
ポップアップステージ東外 / トイレ4

8月号 クウェート館 ※予定

タイ館 ※予定

andmore

動静レポート

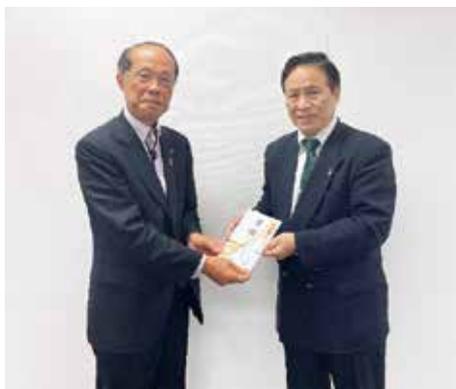
会長動静

- 4/30 日本建築士会連合会・古谷会長面談
日本建築センター・和泉顧問、橋本理事長面談
近畿建築確認検査協会・澤田会長面談
萬川国際委員長面談
- 5/1 ~ 5/11 歴史的建造物の保存と利活用のための海外視察研修:フランス(パリ)、イタリア(ミラノ、コモ、ベローナ、ナポリ、ポンペイ、アマルフィ)、ドイツ(フランクフルト)
- 5/12 日本建築士会連合会・財政健全化検討 TF
- 5/13 大阪府収用委員会協議
大樹会・大附元会長面談
- 5/15 田代表彰委員長面談
日本建築材料協会総会
- 5/16 消費者団体との意見交換会
全日本不動産協会大阪府本部総会
- 5/20 第2回関西 Innovation Cross Forum
日本ツーバイフォー協会総会
- 5/21 日本建設業連合会関西支部総会
- 5/22 大阪建設業協会総会
- 5/23 正副会長会議、運営会議
大阪府宅地建物取引業協会総会

大樹会より寄附金の受領

大阪工業大学建築学科の卒業生や関係者で構成される同窓会、大樹会(大阪工業大学建築会)が、創立50周年という節目を越えて昨年度に解散されました。この度、解散時の資産の一部を、大附一彦元会長より本会へご寄附いただきました。

ご寄附の趣旨に沿いまして、本会の公益目的事業活動を推進する費用に充てるために、有難くお受けするとともに深く感謝申し上げます。



消費者関係団体との意見交換会

5月16日、全国消費生活相談員協会関西支部、日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会西日本支部、関西消費者連合会、大阪府地域婦人団体協議会の各役員を招き、本会からは岡本会長他関係役員による意見交換会を開催しました。

本会事業である建築相談の傾向を紹介し、消費者団体からは耐震診断や既存住宅状況調査、空き家問題等に係る具体的な相談内容について意見交換を行いました。なかでも「ひと部屋断熱・耐震事業」について特に強い関心を示され、ご賛同を得ました。



令和7年春 園遊会に臨んで

日程: 令和7年4月22日(火)
会場: 赤坂御苑

4月22日(火) 晴れ後曇り そして雨
前日の15:00に赤坂離宮を見下ろすホテルニューオータニに腰を下ろした。春の高い栄養と心に強いインパクトを募らせる園遊会に招待され、心を落ち着けて二度と訪れない感激を十二分に味わうため、多少不自由な足に不安を持つ家内の着付け等の時間を考えての前泊である。ホテル入り口でスーツケースを引っ張り、家内の手を引いた私が岡本ですと言うに間髪を入れずに岡本森廣様ですね!と言われフロントまで重く大きいスーツケースを引いて誘導された。私のフルネームを何故に?ホテルの予約時に家内の体の不自由さを書き込んでいたからと妙に感心することであったが、ここまで情報が徹底されてサービスの質が高いなと感激した。

当日12:30受付に対し11:30に予約のタクシーは来たが途中の渋滞のため西門から

入っても中々進まず、普通は10分で行くところが予定の場所には12:30にやっと到着した。音楽隊や古式豊かな和楽の生演奏が快い春風に乗れ、湖水と見紛う見事に手入れされた造園美溢れる池や芝生、植樹、花木等の場所である。西村宮内庁長官が先導され天皇陛下・皇后陛下が湖畔の中の散歩道をゆったりと歩いて来られ止まられて「何のお仕事を?」と聞かれ「駅・学校・ホテル・病院の設計、耐震補強設計・工事監理に携わって居ります」と答えると「南海トラフ等大変ですので頑張って下さい」とお言葉を賜った。続いて「ミャンマー地震の耐震技術支援に参ります」と答えると「あの国は大変困難な状況、支援に力を尽くして下さい」という言葉を賜った。皇后陛下も相槌のしぐさ、最後には軽く頭を下げ会釈され、家内は足が震えたと言っていた。陛下が様々な事情に精通、広く胸

を痛めて居られることに感動し胸を打たれ、一層の貢献に全力を尽くしたいと誓うことであった。



岡本森廣(会長)

大阪市高齢者住宅改修費給付事業審査業務について



堀田智子(青年・女性委員会 委員)

2025年度も昨年に引き続き、大阪市から高齢者住宅改修費給付事業の業務委託を受けました。最初に受託したのが2018年ですから、今年で8年目になります。

これは大阪市が行っている事業で、介護保険制度の居宅介護(介護予防)住宅改修費の支給を受けて住宅改修を行うとき、関連する工事であるが支給対象とならない部分について、その費用の全部又は一部を給付するというものです。

そこで委託を受けた私たちの役割は、真に必要な工事が適切に行われるよう、申請内容が正確であるかどうかを審査し、必要な助言・指導を行うことです。具体的には工事内容が、介護保険の対象なのか?こちらの事業の対象なのか?を確認し、さらには、同じ床・壁工事でもどの部分がどちらの制度でカバーされるかを適切に按分する必要があります。

工事内容としては、通称「汽車便」から洋式便器への交換に伴う床、壁の改修や、在来工法の浴室では、浴槽のマタギ寸法を小さくする、床を滑りにくいものにする、出入口をバリアフリー化するなどの改修が多いのですが、その申請の中で特に注意が必要なのが先ほどの「按分計算」です。介護保険とこちらの高齢者改修費給付事業が負担する費用の割合を正確に計算することは、申請する業者にとっても難しい作業であるように思います。(実際の工事より難易度が高いと感じるかもしれません)

とはいえ、このややこしい計算も、改修範囲の線引きも(壁等の改修範囲も細かく決められています)少しでも多くの方が平等にこの制度を利用するためのものです。

業務は週のうち2日(月・木)で、当番制で行います。担当者が毎回変わるため、FAX、メール、議事録等の書式を常に使いやすい形に

更新し、毎回担当者全員に業務内容を送信・共有することにより、しっかり申し送りができるようにしています。

そして、その改修工事が高齢者ご本人をはじめ、申請にかかわるすべての方(ご家族、介護支援の方、施工業者、区の担当窓口など)にとって有意義なものになるよう、心のこもった審査を行うことを心がけ、日々努力を重ねています。



建築相談室から(96) 建築士の相談1

橋本頼幸(建築相談委員会幹事)

先月、2024年度の建築相談集計速報をお伝えしました。詳細なレポートは建築士会のホームページ「住まいに関する『建築相談室』」で公開しています。先月お伝えしたように、2024年度は前年に比べて建築士・設計監理者からの相談が増加しました。今月は建築士に関する相談事例をご紹介します。

途中で契約を解除したい

建築主からの相談で多いのは契約解除に関する相談です。「設計事務所に依頼して1年経過したが、設計が半分程度しか進んでおらず、設計事務所への信用がなくなったため、契約を解除したい。既に、着手金と基本設計料として全体の3割を支払っているが、残りの支払いはいくらになるか。」「着工予定日になっても確認申請が完了しておらず、準防火地域のため、LDKの窓が網入りになると言われた。事前に眺望のために網入りはやめてほしいと伝えており、設計事務所も当初から網

入りにできないことは分かっていたはずだ。解約し、設計料を返金してもらいたい。」「(工務店からの相談)設計を依頼したが、約束の期日になっても連絡がないため催促したところ、いつになるか分からないと返事があった。施主が怒っており、既に支払っている金額の返金を求めている。」

契約を解除された

設計者側からの相談も同様に解除に関する相談が多いです。「老人ホームの設計を引き受けているが、一方的に契約解除された。設計費用は約1000万円で、図面は詳細図まで作成済み、構造設備設計もほぼ完了しており、確認申請はこれから。報酬はもらえるのか。」「設計が9割完了した段階でキャンセルになった。どう請求すればよいか。設計見積は提出済み。」

契約解除は契約書に基づく

原則として、契約の解除は契約書に基づいて行われます。しかし、相談事例の多くは、契約

書がないか、契約書に基づく処理に不満があるケースです。

発注者(建築主)からは、「払い過ぎたので返金してほしい」「設計に不備があり、不満がある・信用できない」といった相談があり、解決は容易ではありません。一方、設計者側からは、契約をキャンセルされた、解除された場合に、それまでの分の報酬を請求できるか、という相談が中心です。設計者側からの相談では、契約が締結されていないことがほとんどです。見積書は提出しているものの、契約書がないと思われるケースもあり、紛争になると解決に時間がかかりそうです。また、そのような場合、十分な報酬を得られず、後味の悪い結果になることも予想されます。発注者側も同様で、一度信頼関係が崩れると、時間的にも金銭的にも損失が大きくなります。次回も建築士に関する相談、建築士からの相談事例についてご紹介します。

建築士会からのお知らせ

2025年版会員名簿の掲載事項について

8月号に同封予定の会員名簿の掲載事項は、①氏名、②勤務先名、③勤務先住所・電話番号、④建築士級別(正会員のみ)となっております。つきましては、

A. 氏名以外(②～④)を掲載しない。

B. 連絡先が自宅のみのため、③に自宅の連絡先を掲載する。

C. 氏名を含め一切掲載しない。ホームページの名簿からも削除。

上記A～Cのいずれかをご希望の場合は、6月13日(金)までに本会事務局へメールかFaxにてご連絡ください(既にご連絡済の場合は不要です)。

e-mail: info@aba-osakafu.or.jp

FAX: 06-6943-7103

第67回建築士会全国大会 「おおさか大会」開催: 参加申込

9/19

開催日 9/19(金)

会場 グランキューブ大阪

申込期間: 4/10(木)～6/15(日)

お申込みは大会特設HPより



<https://www.aba-osakafu.or.jp/convention/>

令和7年度 建築士定期講習

6/13、7/17、7/29、8/27、9/17、10/17、

11/20、12/12、1/21、2/13、3/26

建築士法の規定により、建築士事務所所属するすべての建築士は3年以内ごとに定期講習を受講しなければなりません。本年度は令和4年度に本講習を受講された方や、建築士試験に合格された方が対象となります。未受講者は懲戒処分の対象となりますので必ず年度内に受講してください。

▼日程・会場・定員

※6/13(金) 大阪府建築健保会館 80名

7/17(木) (一社)大阪府建築士事務所協会 会議室 20名

※7/29(火) (公社)大阪府建築士会 会議室 30名

※8/27(水) 大阪府建築健保会館 80名

9/17(水) 大阪府建築健保会館 70名

※10/17(金) 大阪府建築健保会館 80名

11/20(木) 大阪府建築健保会館 70名

※12/12(金) 大阪府建築健保会館 80名

1/21(水) 大阪府建築健保会館 70名

※2/13(金) 大阪府建築健保会館 80名

3/26(木) 大阪府建築健保会館 70名

上記すべてDVD講習です。

※の日程: 大阪府建築士会が運営

※以外の日程: 大阪府建築士事務所協会が運営

(注) 各回定員に達し次第、受付を終了します。

時間 9:15～17:00(各講習日共)

受講料 12,980円(消費税含。事前入金)

申込 建築技術教育普及センターHPより

失敗しない塗料の基礎知識

6/20 CPD1単位

塗料は建築仕上材の基本中の基本です。様々な下地に対応可能で、着色や表情を与えるのみならず、躯体の保護も兼ねる優れ物です。しかし扱いを間違えると色々なトラブルの原因にもなります。種類も多く、なかなか系統立てて学ぶ機会の少ない材料でもあります。

今回、当会の賛助会員でもある塗料メーカーの担当を講師に迎え、失敗しない為の基礎知識を勉強したいと思います。

日時 6/20(金) 18:30～19:30

講師 エスケー化研株式会社 細川 敦史

定員 30名(申込先着順)

会場 ゆめニティまつばら3階多目的ホール

参加費 1,000円

建築士の日の記念事業

セミナー: 危ない我が家

7/2 CPD2単位(予定)

人は歳を重ねるにつれて、身体の状態が変わってきます。これまで気にならなかった住まいのあちこちが、いつのまにか健康を脅かす「危ないスポット」になることも…。我が家が安全なものであるために気を付けるポイントについて、建築士の目線でお伝えするセミナーです。

日時 7/2(水) 18:30～20:30

会場 大阪市立住まい情報センター3階ホール

講師 竹田敦子(当会所属建築士・大阪市高齢者住宅改修費給付事業審査員)

資料代 セミナーで使用する資料「安心・安全・安らぎの家(定価500円)」を、当日は特別価格300円と引き換えにお渡します。

定員 先着順 100名

IT活用連続セミナー

7/7、7/14 CPD2単位(予定)

建築設計事務所のDX(デジタルトランスフォーメーション)運営について、これからの建築業界に必要なIT知識向上のためのセミナーを行います。

日時 基礎編: 7/7(月) 15:00～16:40

活用編: 7/14(月) 15:00～16:40

会場 大阪府建築士会 東会議室+WEB併用

定員 各回 会場30名+WEB参加50名

(申込先着順)

受講料 建築士会会員:

2回セット4,000円、1回のみ2,500円

一般:

2回セット5,000円、1回のみ3,000円

放射空調 体感セミナー

一水を造り、熱を活かし、音を究め、よりよい環境をつくる

7/8 各CPD2単位(予定)

本セミナーでは、健康性や快適性に直接影響を与える温度・湿度・気流などの要素の制御方法に加え、放射空調による知的生産性の向上、そして安全・安心についても体感いただけます。実際に放射空調を導入したセミナー室にて、システム概要から効果まで、エンジニアが講師となりトータルに解説して頂ける貴重な機会ですので奮ってご参加下さい。

日時 7/8(火) 第一部 12:30～(仮)

第二部 15:30～(仮)

会場 ササクラテクノプラザ

定員 各回 25名

受講料 建築士会会員2,000円

後援団体会員3,000円

一般4,000円



Informationの詳細及び申込みは大阪府建築士会ホームページに掲載しています。
<http://www.aba-osakafu.or.jp/> メール info@aba-osakafu.or.jp
 TEL.06-6947-1961 FAX.06-6943-7103

既存住宅状況調査技術者講習

新規講習7/9、10/22

更新講習9/25、11/7、2/25

CPD新規5単位、更新2単位

既存住宅状況調査は、登録機関の講習を修了した建築士だけに認められる業務です。ぜひ本講習で新たな業務の資格を取得してください。令和4年度に本講習を修了された方は本年度が有効期限となりますので、更新講習をご受講ください。

▼新規講習(DVD)

日時 7/9(水)、10/22(水)

9:30~17:00

会場 大阪府建築士会 東会議室

定員 30名(定員に達し次第締切)

受講料 WEB申込21,450円

郵送申込22,000円

▼更新講習(DVD)

日時 9/25(木)、11/7(金)、2/25(水)

13:30~17:00

会場 大阪府建築士会 東会議室

定員 30名(定員に達し次第締切)

受講料 WEB申込17,000円

郵送申込17,600円

▼申込 日本建築士会連合会ホームページよりお申込みください。上記以外にオンライン講習も開催いたします。

<https://www.kenchikushikai.or.jp/koshukai/kizonjyutakujyokyocho.html>

令和7年度監理技術者講習

7/24、9/26 CPD6単位

本講習会は建設業法に基づく法定講習であり、建築に特化したテキストを使用し、経験豊富なベテラン技術者の講師による解説と映像で、実務に役立つ情報を提供いたします。

日時 7/24(木)、9/26(金)

各8:55~17:00

会場 大阪府建築士会 東会議室

定員 各回30名(定員に達し次第締切)

受講料 WEB申込み9,500円

郵送申込み10,000円

申込 日本建築士会連合会HPより

<http://www.kenchikushikai.or.jp/torikumi/news/2015-07-28-2.html>

(予告) 令和7年度地域文化遺産のガイド人材育成講座

7/26、8/2、12/13

本講座は、文化庁の補助を受け、地域の町並みや文化遺産を案内するガイド人材の育成を目的とします。

第1回:7/26(土) 講師:高岡伸一 ほか(予定)

会場:綿業会館(予定)

第2回:8/2(土) 講師:中嶋節子

船越幹央(予定)

第3回:12/13(土) 講師:船越幹央 ほか(予定)

各回定員20名(予定)

受講料 各回4,000円

詳細は6月23日に本会ホームページに公開します。

広域災害調査技術者講習会

第2回『風水災害の査定・調査』

7/31 CPD5単位

本研修会は、近年ますます懸念が膨らむ大規模な災害に備えて建築士の職能を活かした取り組みの一環として、社会的復旧・復興に資する建物被害等の損害鑑定業務等の調査練度を向上させるため、近畿二府四県の会員向けに開催します。

日時 7/31(木)

10:00~16:00(受付9:30~)

講師 内山鑑定株式会社 大阪本部

上川部長 1級鑑定人

定員 対面方式(定員30名)+WEB方式

会場 大阪府建築士会 東会議室

※WEB方式はTeams使用

参加費 1,000円 ※資料印刷代及び事務局経費

受講対象者 一級建築士 二級建築士

令和7年度

第12期大阪府ヘリテージマネージャー育成講座(全10日間)

8/9、8/23、10/4、10/18、11/8、11/22、12/6、

12/20、1/17、1/31

CPD1日4単位(予定)

本講座は、文化庁の補助を受け、府下の更なる歴史文化遺産を発見し、既に指定されてい

る文化財建造物や登録文化財等の活用と保存を推進し、まちづくりに活かす能力を持った人材“ヘリテージマネージャー”を育成する講習会です。全10日間の講座(講義時間数は合計40単位)で歴史、修復技術、実測実習、保存活用などの基礎を学びます。

日程(予定) 8/9、8/23、10/4、10/18、11/8、11/22、12/6、12/20、1/17、1/31

時間 13:00~17:00

(12/20は地域講座11:00~18:00)

定員 22名(申込先着順)

受講料 本会会員36,000円

会員外41,000円

6月25日(水)10時より受付開始予定。申込みは本会ホームページからWEB申込みしてください。※地域講座は他府県のヘリテージマネージャーも受講可。

※講座詳細は、6月10日以降に本会ホームページに掲載いたします。

その他のお知らせ

写真展「MOAIの独言」

6/10~6/21

7月より貴紙に寄稿させていただくMOAIこと伊藤淳一と申します。「MOAIの独言」は日々に引かれた光景やモノをスマホで撮影、加工した作品です。今回の寄稿はこのシリーズで撮り貯めた作品からの抜粋です。固定概念にとらわれず自由に感じてください。このシリーズは2017年からInstagramで毎日発信しています。ご興味のある方は以下のQRコードからアクセスしてみてください。

期間 6/10(火)~6/21(土)

※日月定休

会場 アンズ舎(大阪天満宮門前のカフェ)

大阪市北区天神橋1-18-19

フラットワン天神橋1F

営業時間 12:00~19:00(火水木)

12:00~21:00(金土)

Photo Office MOAI

Instagramはこちらから



塔のある複合施設の存在感

福岡県文化会館（現・福岡県立美術館） 一九六四年

文・写真 松隈 洋「神奈川大学建築学部教授」

こんな重厚で風格のある滋味深い近代建築が、戦後の福岡にあったのか、と現地を訪れて心底驚かされた。それが、前紹介した天神ビルから五百mほど北に位置する須崎公園に建つ福岡県立美術館である。けれども、ピロティに支えられた磁器タイル張りの量感ある寡黙な本体と高さ約五〇mの塔を持つ外観は、美術館には見えず、どこか北欧の教会のような、凛とした内省的な雰囲気を感じさせていた。

美術館と図書館というユニークな組合せの複合施設として竣工し、福岡県文化会館という名称だった。その後、一九八二年に図書館が独立して別の場所に新築された際、内部を大きく改造されて美術館に特化され、現在まで大切に使われてきた。実は、謎だった塔の内部は八層からなる図書館の書庫であり、今は美術館の収蔵庫として使われている。竣工から六一年、福岡市内で最初の公立美術館として、約五十八万人の入場者数を数えた一九六五年のツ



南西側から見た美術館全景



二階の中央階段とロビー

タンカーメン展や、ロダン展、ルノワール展など、世界の名作に触れる機会を得た場所として、県民にとって、戦後の記憶を刻んだ思い出のある美術館となっていたに違いない。そのためなのだろう。竣工時と内部は大きく変更されたものの、活き活きとした清新さを感じられた。

それにしても、なぜ図書館との組合せになったのだろうか。そこには、県立図書館が遭遇した苦難の歴史があった。その歴史は古く、一九一八年、大正天皇の御大典記念事業として、木造の瀟洒な姿で、今の天神ビルのある二丁目に開館する。しかし、太平洋戦争末期の一九四五年六月十九日の深夜、米軍のB二九爆撃機の焼夷弾による福岡大空襲によって、中心市街地のほとんどは焦土と化し、図書館も焼失してしまふ。それでも、そのわずか十日後には仮事務所により復興作業を開始し、一九四九年に木造平屋の図書館を建て、戦後の活動を再開させていく。

こうして、敗戦から十年が経った一九五五年、戦前よりも人口が増え、地方都市として発展してきた福岡市に、満足の公会堂や美術館、図書館のない現実を前に、文化センター建設期成連合会が結成される。しかし、建設予定地の須崎公園内にあった戦災者住宅の立ち退き反対運動などで計画は立ち遅れ、ようやく、一九六〇年に計画が具体化する。そして、一九六三年、北隣に先行して建設された福岡市民会館（設計／村田大旗建築事務所）の開館に続いて、長く待望された図書館と美術館の複合施設として実現したのが、福岡県文化会館だった（図録「1964—福岡県文化会館、誕生」二〇二四年）。それでは、この建築に込められていた

のは、どのような建築思想と方法だったのか。設計を手がけたのは、早稲田大学大隈記念講堂（一九二七年）や岩国徴古館（一九四五年）、旭川市庁舎（一九五八年）などで知られる佐藤武夫（一九九〇—一九七二年）である。また、県から示された設計上の「強い要望」は、「総坪数二千坪内外」という規模と工費の他に、「ジェット機の騒音対策」と、図書館の「書庫」に「三十万冊収納できること」、「公園内に建設されるため」、「建築面積を極力小さくすること」だった（下妻力「設計要旨」『近代建築』一九六五年一月号）。こうした中で、佐藤は、竣工パンフレットに、「設計上の根本となった構想」について、次のように書き留めている。

「この文化会館の設計をお引き受けして、これは、単なるそれらの内容の容れものとしての建物であつては足りない、この建築自体が福岡県文化の象徴であらねばならない、そう考えました。既に出来ている市民会館と対いあつて、調和をそこなうことなく、むしろ快よいコントラストを保ちながら、近い将来公園化される筈の周辺一帯のすばらしい文化センターとしての環境を心に描きながら構想をまとめていったのです。

書庫を立体化してこれを高塔にしつらえたり、大きな外壁を遮音上無窓に試みたりしたことは、そうした造形上の意図がからんでいます。」（『福岡県文化会館』一九六四年）

ここに記されたとおり、先に完成した市民会館と「快よいコントラスト」を保ちつつ、周辺一帯の環境と調和し、「福岡県文化の象徴」となる造形上の

意図から、書庫を積み上げて高塔とし、遮音上、外壁を無窓にしたマッシブで寡黙な外観が作り出されたのだ。しかも、そこには、竣工後に記した次の文章にあるような、独自の建築思想が盛り込まれていた。

「一つの建築が創られるときには固定化された目的があるし、その条件もほぼ一定しているはずだから、（…）出来上がる建築は、誰が設計しても同じような形式の表現をとるだろう。だが、事実は設計者によって同一目的と同一条件下で大変な違いがでてくる。（…）建築とはそういうものなのである。」

もちろん、問題の科学的な把みかたや論理のたて方、思考の態度、その深さなどで違った方向も出てくるのだが、それにも増してわたくしは、設計者の教養や嗜好が、そして情操というようなものが大きく要素として全体を通じて働くことを否定したくない。これがある故に、そしてこれを具象化するための独自のテクニックが身についている作家だけが、個性の強い作風を示し得るのだという風に考えている。

わたくしはこうした形而上の心の糧を、いつも古典から見つけたいと願っているし、事実、新しい建築よりも古いそして優れた建築を上げればと見入ることの方が好きなのである。」（『建築文化』一九六五年一月号）

文末に記された「心の糧」となった「古典」の「優れた建築」とは何だったのか。そのことを含めて、この美術館は、強い存在感で、今もなお、不思議な魅力を放ち続けている。これからの良い形で存続してほしいと思う。

亜鉛を 塗る

新感覚のコーティング。

天然由来の亜鉛が持つ質感や意匠性に注目した
新しいコンセプトの製品『塗る亜鉛テクスチャー』が誕生しました。

まるで素材がそのまま塗られているような質感。
塗り重ねることで、見る角度によって変わる独特な陰影をつくり出し
平面に立体的な奥行きを表現できます。

鉄や亜鉛めっきだけでなく、木や石、プラスチックなどにも塗装でき
亜鉛が持つ落ち着いた金属感を塗布することが可能です。

鋼板でしか得られないような重厚な金属感は
木材や周辺の自然の豊かな緑とも調和します。

亜鉛という天然のテクスチャーが持つ意匠性は
空間を演出する素材として
イマジネーションをかきたてます。



製品特設サイト



2階オフィスエントランスから御堂筋を臨む



御堂筋の栈敷席